

リッティの ありがとう 舞鶴



国際交流員の孫立姉です。

「光陰矢の如し」。舞鶴に来てあっという間に1年が過ぎ、2度目の桜の季節を迎え、とうとう帰国の日がやってきました。五老ヶ岳から見たまぶしい初日の出、日本の歴史文化を感じる神社・仏閣や近代化のシンボルである赤れんが倉庫群、燃えるような紅葉の金剛院など、舞鶴着任当時に感じた「新鮮な感動」は「思い出」として胸に刻み込まれています。また、私にとって試練であった夏の猛暑も今では懐かしく感じられます。

帰国するにあたり、初めて経験する日本式のワンフロアの職場で熱心に指導していただいた職員の皆さん、異国の地・舞鶴で家族同様に生活のサポートをしてくださった市民の皆さん、親切に日本の文化を体験させていただいた先生方、その他多くの方々からいただいたご厚情に、心からお礼を申し上げたいと思います。

大連に戻ってからも、舞鶴で過ごした1年間の思い出を胸に、大連市民に舞鶴の素晴らしさを伝え、両市そして両国の友好交流促進に少しでも役立つと思っています。また機会があれば舞鶴に戻ってきて、友人である皆さんに再会したいと思っています。

本当にお世話になりました。再見！

《みなと振興・国際交流課》



ごみブクロウの (方法) 『エコな生活ホーホー』 教えます！



つついごみ箱に入れてしまいがちなお菓子の箱や小さな紙片。そんな資源を救出するために役立つのがいらなくなった紙袋。ごみ箱の横に置いて、再生できる紙を分ける習慣を身に付けよう！

▶詳しくは、生活環境課 (☎66・1005) へ。

ドクターTのひとりごと その⑩ 市職員には 専門性が求められる

私は市長に就任してから、市職員に対してプロ意識を持ち専門性を高めることが必要だと述べてきた。では、プロとは何を指すのだろうか？メジャーリーグのイチロー選手はプロ、いや、プロ中のプロであると誰もがそう思う。それは一般人はもとより少々の素質では、どんなに努力しても真似できないからである。プロ中のプロは別格として、ではどうしたらプロになれるのだろうか？それは、現状に甘んじず、常に上を目指して試行錯誤しながら、何年も何年も努力する人がなれるのだと思う。2年や3年の期間、そばで見ているだけで真似されるようではプロではないと思う。ましてや、1か月程度の研修で習得できる技術や対応はプロの仕事ではない。私も含め市職員は、顧客である市民の皆さんや市内企業、各種団体のニーズを的確に把握し、高い専門性をもって効率的でスピード感のある仕事をしなければならない。このような職場環境とするには、幹部職員は部下の特性を生かし、成長する機会を提供しなければならない。与えられた仕事をこなすだけではプロではない。市職員は常に向上心を持ち、考える集団にならなければならない。

まいづる花図鑑 80

【ムシカリ】 (スイカズラ科) 見ごろ4~5月頃



山地の高所に見られることが多い落葉低木。葉は丸くて大きく、長さ7~15㎝。葉脈はくぼんでよく目立つ。春、葉がほころびかけるころ、枝先に白い装飾花に囲まれたガクアジサイに似た花が咲く。果実は始め赤く、後に黒く熟する。

名前の由来は、「虫食われ」からで葉が虫によく食べられることから。大きな葉を亀の甲羅に見立て「オオカメノキ」とも呼ばれる。

【協力】 瓜生勝朗 市文化財保護委員 (植物分野)

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回紹介する資料は「白樺日誌」です。

シベリア抑留中の体験談を記した書籍は多く存在しますが、そのほとんどは復員後の記憶をもとに記したものです。しかし、白樺日誌はシベリア抑留中にその日の思いを俳句や和歌にしたためたもので、抑留中に木の皮に記した歌日誌としてはおそらく国内唯一の大変貴重な歴史資料と考えられます。

この白樺日誌を記したのは舞鶴市出身の瀬野修さんで、昭和19年に出征し択捉島へ渡り、翌年9月に捕虜となりシベリアへ連行されました。

白樺日誌は9月下旬頃から書き始められています。択捉島を離れる際には、誰もがふるさとに帰れると思いついて必要最小限の荷物で乗船したため、筆記用具などは一切持っていませんでした。そのため、白樺の皮をはいで紙の代用とし、空き缶を加工してペンを作り、煙突のすずをインク代わりにして記したのです。瀬野さんのしたためた俳句・和歌は20枚の白樺の皮に200首余りにのぼり、いつ帰れるかわからない不安とつらい重労働の日々を慰めるものだったようです。



その内容は択捉島での軍隊生活の回想に始まり、抑留生活を送るシベリアでの日々の重労働の様子、収容所で多くの人が栄養失調で亡くなっていく様子などをはじめ、日本にいる家族を思っていたためのもや「仲秋の月はお出でたり 赤々と 大き月なり 古里思ふも」と故郷を懐かしむものも多く見られます。

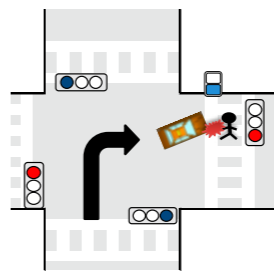
その一方で、「白樺の 株の拓き 植えし薯 不作といふも 掘るは嬉しき」と白樺の森を開拓した土地に植えたジャガイモが不作でも、食糧が少なかった状況では小さいイモでもとても嬉しかったと、つらく苦しい生活も前向きにとらえ、力強く生き抜こうとした姿が読み取れる歌もあります。

こうした、瀬野さんの白樺日誌の俳句・和歌を次回も紹介します。

▶詳しくは、引揚記念館 (☎68・0836) へ。

くらしの豆知識⑥ ~ 低速度でも死亡事故に ~

右の図は、最近市内で実際に起こった交通死亡事故の様子を表したものです。被害者も加害者も高齢者で、信号が青になったため、横断歩道を歩いている最中に右折し始めた乗用車と衝突したものです。



近年、歩行者の死傷事故では時速20㎞以下以下の車との衝突が圧倒的に多く、約67%を占め約3件に2件は低速域で事故が起っています。車に押し倒され路面に強打したり、車の硬い部分に当たったりすることが原因と考えられます。

事故の大半は運転者の見落としや歩行者の発見遅れが関与しています。安全確認の重要性を見直して事故を防ぎましょう。

4月6日から「春の全国交通安全運動」が始まります。事故の加害者にも被害者にもならないよう常日頃から気を付けましょう。

▶詳しくは、市民相談課 (☎66・1006) へ。

図書館だより ~ 今月のおすすめ本 ~



ダニ・マニア 島野智之
血を吸い、恐ろしい病気を運んでくるダニ。死骸はアトピーやぜんそくの原因にもなるという。しかし、そんな悪いダニは全体の1%。チーズをおいしくしたり、落ち葉を分解したり社会に役立つものもいる。ダニの生態を正しく知ることができる1冊。(東)



名作うしろ読み 高藤美奈子
「坊っちゃん」「雪国」「カラマーソフの兄弟」など、古今東西の132作品を最後の一文から斬新に読み解く名作再発見の一冊。「若者はその歴史の扉をその手で押し、そして未来へ押しあけた」は何という作品のラスト？(西)

▶詳しくは、東図書館 (☎62・0190) 西図書館 (☎75・5406) へ。